

2026年度

世界史

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～11ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 神聖ローマ帝国の歴史に関する次の文章を読んで、文中の空欄 A ～
 T にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。 G ・ M
・ R には人名が入る。なお、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。
(例「ジョージ7世」)

神聖ローマ帝国は現在の A にあたる領域を中心に、962年から1806年まで800年以上にわたって存在した国家である。18世紀 B の啓蒙思想家ヴォルテールによって、「神聖でもなければ、ローマ的でもなく、そもそも帝国でもない」と揶揄されたと伝えられるが、この国家は一体どのような経緯で神聖ローマ帝国と呼ばれるようになったのであろうか。

話は800年のクリスマス、ローマのサン=ピエトロ大聖堂で、 C 朝のフランク国王カールが教皇レオ3世より皇帝の冠を授けられた時に遡る。この皇帝とはローマ帝国の皇帝を意味した。そのためカールの皇帝戴冠は、ビザンツ帝国(東ローマ帝国)との間で「二皇帝問題」を生じさせたが、812年にビザンツ皇帝は、カールがヴェネツィア領有の放棄を約束することと引き換えに皇帝の称号を用いることを承認した。

カール大帝が814年に死去したあと、その孫の代になると熾烈な領土争いが起きたが、843年の D 条約により、東フランク王国、西フランク王国(のちの B 王国)、中部フランク王国の間で領土を3つに分割することが定められた。870年の E 条約では、中部フランク王国がさらに3つに分割され、その北東部分が東フランク王国に、北西部分は西フランク王国にそれぞれ併合され、残った南の部分はイタリア王国となった。その後ほどなくして、かつてのカール大帝の帝国は東フランク、西フランク、ブルグント、プロヴァンス、イタリアの5つの王国へと分裂した。東フランク王国の C 家は911年に断絶し、924年には皇帝位も途絶えた。

東フランク王国の王位を936年に継承したオットー1世は、962年にローマのサン=ピエトロ大聖堂で教皇ヨハネス12世より皇帝の冠を受け、皇帝位が約40年ぶりに復活した。これが神聖ローマ帝国の起源であるが、当初はまだローマ帝国、もしくは単に帝国と呼ばれていた。これに「神聖」という言葉が加わったのは、 F

と呼ばれる、高位聖職者の任命権をめぐる皇帝と教皇との確執が影響している。

[F] のハイライトは、破門された皇帝 [G] が [H] 城で教皇グレゴリウス7世の足下に懺悔して跪き赦しを乞うた、いわゆる [H] 事件である。グレゴリウス7世は [G] の破門を解いたが、その後も両者の争いは続き、[G] は自らが擁立した新教皇から皇帝の冠を受けて、グレゴリウスを追放した。ローマへの帰還が叶わなかったグレゴリウスは、「私は正義を愛し、不正を憎んだ。それゆえ私は追放の中で死ぬのだ」という言葉を残して憤死した。

[F] は1122年の [I] 協約により終結するが、この確執の中でイタリアでは11世紀以降、北にあるゲルマン諸民族の東フランク王国を [A] 王国と呼ぶことが一般的になった。対して、1155年に皇帝位についたシュタウフェン家のフリードリヒ1世は、皇帝権が教皇からではなく、神に直接由来することを強調し、「神聖帝国」という表現を用いた。「神聖ローマ帝国」という呼称が定着するのは、1254年にシュタウフェン朝の血統が途絶えた後、いわゆる [J] 時代のことである。1273年に [K] 家のルドルフ1世が即位したことで、[J] 時代は終結する。ルドルフ1世は巧みに権力基盤を固め、オーストリアを領土に加えることで [K] 家の勢力拡張の礎を築いた。ルクセンブルク家の皇帝カール4世により1356年に発布された [L] は、皇帝選出の慣習を整理・成文化し、選挙権が7名の選帝侯にあることを確認した。15世紀から16世紀にかけて [K] 家が結婚政策により領土の拡大に成功し、1438年以降1806年の帝国滅亡まで、皇帝位をほぼ独占した。例外は、[B] とプロイセンの支持を受けて、[M] (男系男子の断絶のため [K] 家を相続したが、女性であるが故に皇帝にはなれなかった)の夫フランツ=シュテファンに選挙で勝った、カール7世(バイエルン選帝侯カール=アルブレヒト、皇帝在位1742～45年)である。

1453年にオスマン帝国の攻撃の前に [N] が陥落し、ビザンツ帝国が滅亡すると、神聖ローマ帝国も大きな衝撃を受けた。オスマン帝国の軍事的な脅威を前にして様々な改革案が議論されたが、これらの議論の中で「[A] 国民の神聖ローマ帝国」という名称が出現する。要は、イタリアを除く形で神聖ローマ帝国の枠組みを定めようというものであり、以後は皇帝がローマで戴冠することもなくなった。

1494年に [B] との間でイタリア戦争が始まると、神聖ローマ皇帝マクシミリアン 1 世は [B] を共通の敵とするスペインに急接近した。政略結婚の結果王位継承権を手に入れたマクシミリアンの孫が、1516年にスペイン国王カルロス 1 世として即位した。翌1517年にはヴィッテンベルク大学神学教授のルターが「人は信仰によってのみ救われる」と主張して、贖宥状の販売を激しく批判する「 [O] 」を公表し、宗教改革の幕が切って落とされた。カルロス 1 世は1519年に神聖ローマ皇帝カール 5 世として選出された。1521年に開かれた帝国議会で、カール 5 世からの自説撤回要請を拒否したルターは帝国追放処分になり、ルター派の信仰も禁止された。カール 5 世はプロテスタント諸侯と帝国都市とが結んだ同盟である [P] 同盟を破ることに成功したが、 [A] とスペインとの統合を図ったためにカトリック諸侯からも反発を招いた。1555年、帝国議会はルター派とカトリック派の対立収拾を目的として、ルター派を公認し、諸侯には領邦におけるカトリック派かルター派かの選択権を認めた。これを [Q] と呼ぶ。カール 5 世は翌年皇帝から退位し、スペインの修道院に隠遁した。

[Q] の後も宗派間の緊張関係は続いた。1618年、ボヘミア(現在のチェコの中部・西部)の新国王になったフェルディナント 2 世(1619年に皇帝として即位)のカトリック強制政策に反発したプロテスタント勢力が、プラハ城にいた皇帝の代官と書記を窓の外に放り出す事件を引き起こした。この事件が、多くの犠牲者を生んだ三十年戦争の発端となった。当初は宗派間の争いという側面が強かったが、国王 [R] に指揮されるスウェーデン(プロテスタント国)の軍隊が、カトリックの [B] の支援を受けて皇帝軍と戦うなど、 [K] 家がヨーロッパの覇権を握ることを防ぐための権力政治的争いという側面が次第に強まっていった。

[R] が戦死したあとは [B] が自ら参戦し、スウェーデンと [B] の連合軍が皇帝軍に対して優位に立った。1648年に締結された [S] 条約(オスナブリュック条約とミュンスター条約という 2 つの条約の総称)により戦争はようやく終結したが、各領邦に外交権が認められ、その自律性が強まった結果、神聖ローマ帝国は形骸化した。

1806年、アウステルリッツの戦いでナポレオンがアレクサンドル 1 世のロシア軍と神聖ローマ皇帝フランツ 2 世のオーストリア軍を破ったあと、西南 [A] 諸

邦はナポレオンの庇護下にライン同盟を結成し，神聖ローマ帝国から離脱した。これを機にフランツ 2 世は退位を宣言し，帝国は最終的に消滅した。

中央集権的な国民国家こそ標準的な政治体であるという見方が，B 革命以降長らく一般的であった。この見方からは，神聖ローマ帝国はそれとはほど遠く，A における国民国家の形成を遅らせた要因だとして，否定的に評価される。しかし第二次世界大戦後はヨーロッパ諸国の間で地域統合が進み，冷戦終結後の1993年にはT 条約(条約が締結されたオランダの都市名にちなむ呼称)により欧州連合(EU)が設立された。諸民族を統合した神聖ローマ帝国は，EUの歴史的基盤として再評価されている。

- Ⅱ ベトナム戦争について述べた次の文章を読んで、文中の空欄 ～
 にあてはまる最も適切な語句または数字を記入し、下線部(1)～(3)に対応する問1～3，及び問4に答えなさい。

いまから50年前の1976年，南北ベトナムが統一してベトナム 共和国が樹立された。長らく統一の障害となっていたのは数十年にわたり続いていたベトナム戦争であったが，この戦争がいつ始まり，いつ終わったのかについては様々な見解がある。

戦争が始まった時期としては，大きくわけて次の説がある。

- (a) ジュネーヴ休戦協定の調印直後とする説。この協定は1946年に始まったベトナム 共和国(北ベトナム)とフランスとのインドシナ戦争の休戦のために結ばれ，北緯17度線の暫定軍事境界線と二年後の南北統一選挙の実施が決められた。北ベトナムはアメリカがこの協定に違反してベトナムに介入したと批判した。
- (b) 1959年とする説。この年，ベトナム共和国(南ベトナム)の初代大統領である 政権に対するゲリラ闘争が組織化されたことをもって戦争の開始とする。ベトナム 党はこの闘争を支持することを決定し，南への援助物資の送り出しのためのホーチミン＝ルート⁽²⁾の建設に着手した。
- (c) 南ベトナム民族解放戦線の設立後とする説。南ベトナムの 政権打倒と南北統一を目指して設立され，ベトナム 党と協力してゲリラ戦を展開したことを戦争の始まりとする。
- (d) アメリカの 政権による「特殊戦争」の開始後とする説。1961年以後，アメリカの軍事行動が本格的な戦争としての形態をとりはじめたことから⁽³⁾，これを戦争の始まりとみる。アメリカ政府はこの年をもってベトナムへと派遣した軍人や遺家族の手当支給の基準としている。

また、戦争が終わった時期についても次の説がある。

- (e) ベトナム(F) 和平協定が調印された年とする説。米軍が撤退し、アメリカのニクソン大統領が戦争終結の宣言を出した同じ年の3月とする説もある。
- (f) ホー＝チ＝ミン作戦によって北ベトナムの軍隊が南ベトナムのサイゴンを「解放」した年とする説。

ベトナム戦争の始まりと終わりに関する以上のような見解の違いは、この戦争の性格をどう見るかと関わっている。すなわち、アメリカによる侵略戦争、北ベトナムの革命戦争(祖国解放戦争)、南ベトナムの解放勢力による抵抗戦争、共産主義の侵略から南ベトナムを防衛するための戦争、などの見方である。

だが、この戦争で最も多くの被害を受けたのが、双方合わせて約300万人を超える死傷者を出した南北ベトナムの人びとであったことは間違いない。本当の意味で戦争が終わったといえるのは、ベトナム戦争が民衆にもたらした物的・心的な傷が癒えたときであろう。

問1 この協定が締結されたジュネーヴ会議ではインドシナ戦争の休戦のほか、もう一つの地域の戦争状態を完全に終了させて平和と統一を実現することが議論された。その地域で起こった戦争の名称を答えなさい。

問2 この人物が1941年に独立をめざして結成した民族統一戦線の名称を答えなさい。

問3 アメリカはその後、北ベトナム側から攻撃を受けたとの偽の情報を口実に、北ベトナムへの爆撃(北爆)を開始した。この時のアメリカ大統領は誰かを答えなさい。

問4 以下の選択肢(あ)～(か)から、(a)～(f)と同じ年に起きた出来事をそれぞれ選び記号で答えなさい。

- (あ) カストロとゲバラらに指導されたキューバ革命が起こった。
- (い) 韓国の軍人、朴正熙がクーデタにより政権を握った。
- (う) 周恩来が「四つの現代化」を提起し、農業・工業・国防・科学技術の近代化を図った。
- (え) 第四次中東戦争でアラブ諸国がとった石油戦略の結果、第一次石油危機が起こった。
- (お) 中部太平洋のビキニ環礁でアメリカが水爆実験をおこない、日本の漁船、第五福竜丸などが放射性物質を含む灰を浴びた。
- (か) 日米安保条約改定への反対運動が起こり、岸内閣が総辞職した。

Ⅲ 「奪われる時間」について述べた次の文章を読んで、文中の空欄 ～
 にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線部(1)～(3)に対応する問1～3に答えなさい。

ロシアによるウクライナ侵攻の例を見るまでもなく、隣国の侵攻を受ければ、自国領土の全体、あるいはその一部が奪われることになる。また、歴史が示してくれていることであるが、帝国主義や植民地主義の名の下に他国を支配しようとする国家があれば、⁽¹⁾支配を被る側の民衆は、自国の資源や産業が奪われ、自身の伝統や文化さえもが否定され、軽んぜられてゆくことに耐え忍ばねばならないことになる。もとより、こうしたことは望ましいことでは全くないが、少なくとも目に見える形ではっきりと進行する事象であるため、何が奪われ、何が失われたのかが、誰の目にも明らかであるという特徴はある。

それに対して、目に見えにくいものであるがゆえに、奪われていることすら気付かないものも現実には多く存在する。その一つが「時間」である。

一例を挙げよう。

中国の新疆ウイグル自治区が、中国の領土に併合されたのは、清代のことである。⁽²⁾「新疆」とは、元々「新しい領土」という意味であり、乾隆帝の時代に が滅ぼされ、東トルキスタン全域が清によって占領されたことによって、新疆の中国への服属は始まった。新疆はモンゴル・ ・チベットとともに とされ、理藩院によって統轄された。

「服属地」としての新疆ウイグル自治区の位置づけは、現在の中華人民共和国においても変わっていないようにも思われる。いや、目に見えぬ形で時間までもが奪われているとするならば、事は清代以上に深刻であるのかもしれない。

新疆ウイグル自治区の西の端にあるカシュガルと北京の間には、時差は存在していない。中華人民共和国は、世界有数の広大な国土を有しながら、国内に適用されている時間は、北京を基準とした一つの時計だけとなっている。そのため、経度で言えば40度ほどの開きのあるカシュガルと北京では、同じ時が刻まれている。北京の共産党幹部が、午後7時に夕食をとろうとする時、カシュガルのイスラーム教徒⁽³⁾も夜7時の夕食をとることになる。

しかし考えてみれば、40度の経度の違いがあるのであれば、太陽の高さも異なるのが当然であり、「同じ」時刻として「同じ」夕食をとることには、やはり無理がある。同じく東西に広いロシアにおいては、カシュガルと同じ東経の土地と北京と同じ東経の土地の間には、3時間の時差が設定されている。ロシアでは、少なくとも自分の時間で夕食をとる自由は保たれているのである。

夏季には摂氏40℃になる地域も多い新疆ウイグル自治区にあって、まだ日も高い午後7時に夕食をとらねばならないとすれば、それは生活に即していると言えるのであろうか。しかもそれは、言わば他人の午後7時であって、自分たちの午後7時では全くないという問題にも行きつこう。自分たちの体内時計で言えば、その針はまだ午後4時を指しているにすぎないのかもしれない。こうした状況は、目にこそはっきりとは見えないが、「自分たちの時間が奪われている」ことにほかならないのではなかろうか。

もう一つ別の例を挙げれば、2014年にロシアに「編入」されたクリミア半島や、同じく2022年に「併合」されたウクライナ東・南部4州では、それまで使用されていたキーウ時間に代えて、モスクワ時間への移行が決定されている。目に見えない時間の争奪は、そこかしこで行われているのである。

- 問1 (a) 1884～85年に、アフリカの分割に関して列強が話し合う国際会議が、ベルリンにおいて開催されたが、この会議の開催を提唱したのは誰か。
- (b) 帝国主義の時代は、「世界の一体化」も進展し、例えばイギリスはオーストラリアやニュージーランドへの入植を促進し、前者ではアボリジニーから土地を奪い、後者では先住民の抵抗を武力制圧した。後者の先住民は何と呼ばれている人々か。

- 問2 (a) 1864年に新疆(東トルキスタン)で、イスラーム教徒の反乱が起きた際、
コーカンド=ハン国出身の軍人が新疆に進入し、1871年には独立政権を樹
立した。この軍人とは誰か。
- (b) ロシアは、(a)の反乱に乗じて、1871年に清の領土であった東トルキス
タンのある地方を占領した。ロシアが占領した地方とは、どこか。
- (c) 陝甘総督として(a)の反乱の平定を指揮し、ロシアとの国境を巡る争い
では、武力対決を主張した清の政治家は誰か。
- 問3 (a) イスラーム教徒が用いるイスラーム暦はヒジュラが行われた年を基点と
しているが、それは西暦何年か。
- (b) 礼拝の時刻を告げるアザーンは、イスラーム教徒の義務としての礼拝を
人々に促すものであるが、イスラーム教徒が信徒として信仰し、行うべき
ことの基本を称して何と言うか。

Ⅳ 歴史上に現れた金属貨幣について、経済的側面に限らない多様な歴史的意義を述べた次の文章(1)～(4)を読んで、文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。

- (1) 現在までに発見された世界最古の金属貨幣は、紀元前7世紀頃、アナトリア半島に位置した A 王国で鑄造されたものといわれる。金と銀を含む自然合金(エレクトラム)を用いたこの貨幣には王のシンボルが刻印されており、単なる取引の媒介ではなく王権や国家権力の象徴としても機能した。
- (2) 古代のユーラシア世界では、金が長距離の交易を支え、途上に位置した諸地域世界の交流を促進する上でも顕著な役割を果たした。2世紀半ば、カニシカ王の下で全盛期を迎えた B 朝の時代、インドにはローマ帝国との交易により大量の金がもたらされ、ローマ帝国の貨幣を参考にインドでも金貨が鑄造された。この貨幣にはイランやギリシアなどの文字や神々も描かれており、広範な地域との文化的なつながりを示している。
- (3) 近世以降のいわゆる「世界の一体化」の過程では、銀が広範な地域間の交易ネットワークにおいて中心的な決済手段となった。中国王朝の元では、銀が主な通貨とされ、補助通貨の紙幣である C とともにユーラシア大陸の東西を結ぶ商業・文化交流をうながした。こうした広域商業網の形成の背景の一つには、モンゴル語で D と称される、国家が整備した主要街道に一定間隔で宿駅を設け、物資、情報を運ぶ「駅伝制」の寄与があげられる。
- (4) 中国の歴代の王朝では、銅(青銅)もまた貨幣として広く流通していた。五代十国の混乱を収めて成立した王朝である E では商工業が著しく発達し、主な貨幣として銅銭が大量に鑄造された。その後、銀と紙幣が重視されるようになると、余剰分は日本を含む東アジア全域に輸出された。これは、銅銭が主に東アジア地域内の経済交流を促進し、貨幣経済の発展と経済活動の活性化に不可欠な役割を果たしたことを示している。